

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200020		
法人名	医療法人社団誠和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	香川県丸亀市土器町東3丁目621番地		
自己評価作成日	平成22年3月24日	評価結果市町受理日	平成21年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790200020&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員皆で考えて、のんびりほがらかいいくらしを理念として掲げ、利用者様の一日一日が、のんびり笑顔で過ごされるような支援をしていきたいを考え、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

明るく落ち着いた雰囲気の中で、利用者一人ひとりが思い思いに過ごすことができている。利用者が一日に一回以上は笑ってもらえるよう取り組んでおり、利用者の家族からも積極的に意見を聴くよう心がけている。母体法人の医療機関がすぐ近くにあり、日々の健康管理等、連携がとれている。また、自治会に入り、地域の一員として行事に参加するなど、地域とのつながりも大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同で考えた理念を皆の目の届く所へ掲げ、それに基づきその人らしい安心した生活ができるように取り組んでいる。	職員で意見を出し合い、「のんびり、ほがらか、いいくらし」という理念をつくりあげ、一人ひとりのペースに合わせて生活ができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域での外食、買い物、散歩などを行ったり、手作りケーキをおすそ分けするなどしている。利用者が近所とのつながりが切れることなく日常的に暮らしているように心がけている。	自治会に加入し、地域の一員として、地域の行事に参加している。また、ホームの行事に地域の人を招待するなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を回し行事の参加を促したり、コミュニティの活動の見学をして参加するなどしている。また、認知症の方の対応や実践したことなどを、運営推進会議で話し合い、サービス向上に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、自己評価や外部評価の結果などを話し合い、その意見を率直に受け止め、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進委員会に入居者も参加しており、意見交換がされている。行事についての相談をしたり、地域の人からアイデアが出ることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1回グループホーム連絡会に出席したり、運営推進会議での市職員の参加を通して、実情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築いている。相談したり助言を受けたりしながらサービスの向上に努めている。	市の担当者との連絡もスムーズに行えており、適時、相談したり、助言を受けながら、利用者へのサービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。随時、研修も行い、全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解出来るように学んでいる。	職員間で身体拘束についての理解はしている。ベッドに柵を利用する場合については、事前に家族とも十分に話し合いをし、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で、高齢者虐待防止に関する理解を深め、遵守に向けた取り組みができているが、これからも見過ごすことなく注意を払い防止に努めていきたい。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの出前講座等を利用して研修を行い学んでいる。権利擁護の必要なケースは今の所ないが、また学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族と十分な面接時間を取り、不安や疑問点を尋ね、理解・納得をもらったうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者や家族が言い出しやすい雰囲気づくりや関わりを心掛けている。運営推進会議でも話し合う機会があり、家族の要望や運営に反映させている。	利用者や家族からは、普段の会話の中から、意見を聞くように努めている。家族から要望がでることは少ない。	家族全員にアンケートをとったり、家族同士で話し合える機会を持つなど、意見の出せる場を工夫するような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体カンファレンスや申し送りノートの利用、普段の申し送り時等で出た気づきや意見を検討しすぐに反映させている。	毎月10日には、職員全員が集まり、カンファレンスを開いている。お互いに、意見を出しやすい雰囲気であり、運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り職員の勤務状況や実情の把握に努めている。職員の資格取得の支援や働きながら勉強できる環境づくりの整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会をつくり、職員の力量を把握しその段階に応じた研修に受講できるようにしている。また、勉強会等で発表してもらい職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や一部の職員は研修等を通して交流する機会がある。他の職員は今の所交流が少ないが同業者とのお話しがあるので進めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況を把握し、思いや不安を受け止め、安心して過ごしていただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にゆっくりと話し合い、家族が求めていることを理解し、ニーズにあった対応ができるように、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを確認し、改善に向けた支援や必要なサービスを相談し、適切なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢に伴い残存能力の低下が見られるが、限られた中で利用者の出来る事をしていただき、介護される一方の立場にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やほのぼののだより等により近況報告や情報交換を行ったり、家族に協力を得るなどして、利用者を支えるために、良い関係を築いていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の場所へドライブや買い物に出かけたり散歩したりしている。馴染みの美容院の利用、お墓参りや帰宅等なるべく本人の希望に添うようにしている。	入居後も家族との関係を大事にし、自宅へ帰省をする利用者もいる等、柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性やトラブルなど、職員が中に入り対応し、孤立してしまわないように配慮しているが難しい場面もある。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、お見舞いに行ったり、行事に誘うなどして継続的な関係が保てるように経過を見守ったり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や面接時などで家族を交えてお話をして確認したり、ご家族から情報を得ている。本人の意向や希望を汲み取るようにしているが困難な場合もある。	会話が困難な利用者であっても、出来る限り、本人や家族からの意向を聞くようにしている。また、利用者が意欲を持って取り組めるような活動を探すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らしを知った上でのサービス提供を心掛けている。日々の関わりの中で、ご本人にお聞きしたり、ご家族の力をお借りしながら情報収集し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心身状態の変わることがあり、把握が難しい面もあるが、毎日の様子観察やミーティングなどで話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの話し合いや関係者の思いや意見を聞き、反映させ、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	カンファレンスや日課の中で気づいたことを職員同士で話し合い、利用者の現状を把握し、対応できるよう介護計画にも反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実践・結果、気づきなど介護記録に記入し、職員間で情報の共有をし、改善点など話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにより、臨機応変に対応している 状況により通院や送迎などの支援も柔軟に対応している。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防訓練の参加、行事でボランティアの方に来ていただくなど地域の人の力を借りて楽しんで生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院へ受診できるように支援している。かかりつけ医と連携を取りながら受診援助を行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医があれば、受診できるよう支援している。また、協力医療機関が近くにあり、連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に健康管理と健康面の相談、助言を受けている。病院との連絡ノートの活用や電話・FAXにて状態報告などを行い、連絡を密に取り、受診できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、安心して治療や生活できるように、病院関係者と本人の情報交換や相談などを行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合い、意向を踏まえ、随時意見を確認しながら、医療機関と密に連携を図り、チーム支援に取り組んでいる。	医療機関と連携しており、往診も可能である。終末期については、家族と話し合いをしながら、出来る限りの対応をしていくようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成して、研修を開いているが、定期的な訓練が行えるようにする必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、協力医療機関と共同で消防訓練を行ったり、地域の消防訓練に参加したりしている。地域での災害時対策の会合に出席したり、ホームでの勉強会も続けていきたい。	年2回の防災訓練をしている。近くの医療機関や近隣にも協力してもらえるような体制を作っている。	災害時に利用者自身が避難しなければならないことを意識できるよう、利用者との話し合いを持つような工夫が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って呼びかけをしたり、対応するように心がけている。プライバシーも損ねないように配慮している。	日々の言葉かけの中で、利用者の自尊心を傷つけないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を出し、なるべく利用者が決定できるような場面作りを多くするように心がけて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションを取りながら、本人が決め、納得のいくようにして過ごしてもらっているが、つい職員のペースになってしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性には化粧品を使ってもらうように支援したり、好きな服装を把握してその人らしさを保てるようにしている。衣類の汚れ等は、プライドを守り、さりげなくケアしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるような雰囲気作りをしている。食事の盛り付け、片付けなどは声かけを行い、利用者と共に行動するよう支援している。	食事の準備、片付けについては、声かけをしながら、利用者の出来る範囲で一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックを行い、摂取出来ないときは捕食で補うようにし、一日を通して摂取出来るよう支援している。一人ひとりの状態や好みに応じた支援に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声かけや介助にて、一人ひとりの状態や状況に応じた口腔ケア支援をしている。義歯の方は就寝前に洗浄剤消毒も行っている。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や本人の様子を観察しながら介助し、トイレでの排泄を支援している。失敗やおむつの使用を減らすように支援を行い、一人ひとりに合わせて対応している。	トイレへの誘導や様子観察によって、出来る限り排泄の自立が出来るよう支援している。おむつの使用が減った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と散歩、体操などの適度な運動をしてもらったりして取り組んでいる。個々に合わせた薬での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらうように心掛けているが、職員の都合に合わせている時もある。声かけ・誘導などをして個別の対応をしている。	希望に合わせて、回数や時間を決めることができる。入浴を拒む利用者に対しては、言葉かけを行いながら、入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。寝れない場合は温かい飲み物を飲んでもらったりおしゃべりをして、不眠が続くようなら眠剤も視野に入れ個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり手渡しや介助にて服薬し、確認を行っている。職員は薬の内容について、把握できるように努め、服用後も状態観察し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特技や趣味を把握し、力を発揮してもらえるように、作業を頼んだり、感謝の気持ちを伝えるようにしている。本人の希望される事は、なるべく叶えていけるように検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩と本人の希望に添うように外出支援をしている。家族とも相談し、家族の協力で希望する所へ出かけられるように支援している。	身体的に重度化がすすんでおり、日常的な外出はだんだんと難しくなっている。近くの病院受診をする際などに、外に出る機会はある。	

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、ご自身がお金を持ち管理している方やホームで管理し、買い物をする時に所持、支払いをしてもう方など個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等との電話でのやり取りをしてもらうことや手紙を書いてもらい郵送するなど、家族と相談し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、観葉植物を置くなどして、居心地よく過ごせるようにしている。換気や温度調節にも配慮している。	共用空間は、落ち着いた雰囲気の中で過ごすことが出来る。利用者の作品を展示するなど、楽しく生活するための工夫も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを置き、利用者同士でお話したり、一人でゆったりと新聞を読むなどくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた物や思い出の品・写真などを家族に協力して持って来てもらい、居心地良く生活できるように工夫している。	なじみのある物を持ち込むことは可能であり、利用者の意向に合わせてとともに、落ち着いて生活出来るよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の場所や自室のトイレの場所などに、目印をつけて自立した生活が出来るように配慮している。職員も話し合いをしていき、スムーズに生活できるように対応している。		